

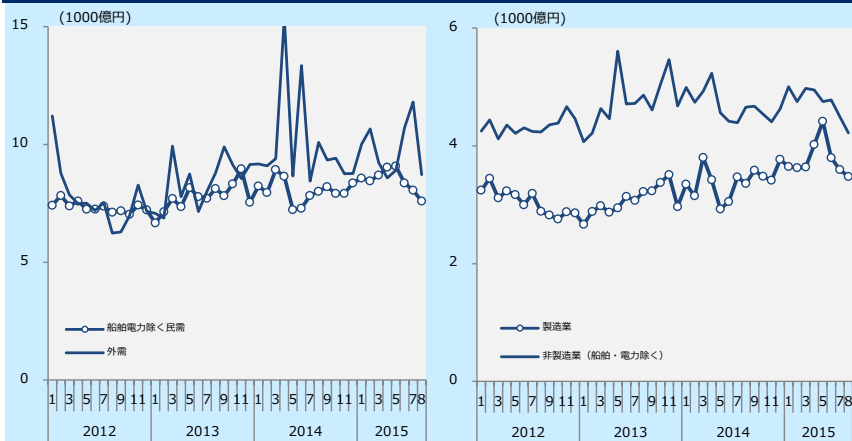
# 日本:機械受注統計 (2015年8月)

## —7-9月期は大幅なマイナスとなる見込み—

# MRI Daily Economic Points

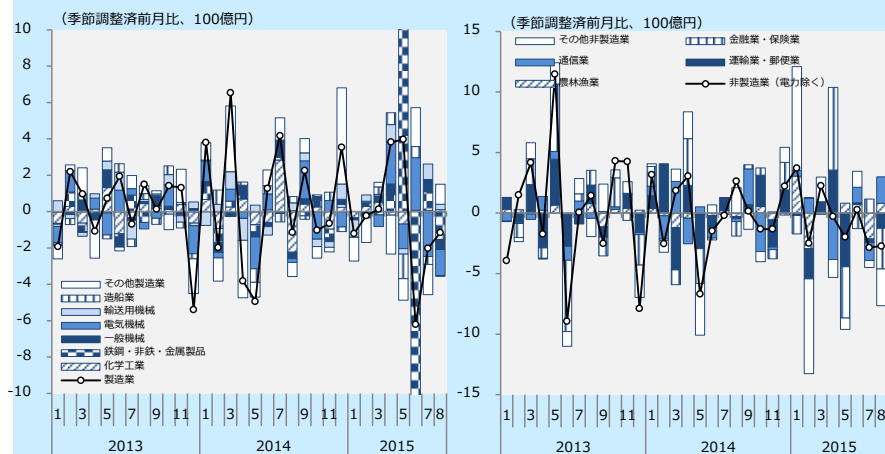
## October 8, 2015

### 機械受注額／製造業、非製造業の機械受注額



注: いずれも季節調整値  
資料: 内閣府「機械受注統計」

### 製造業の機械受注額の寄与度分解／非製造業の機械受注額の寄与度分解



資料: 内閣府「機械受注統計」をもとに三菱総合研究所作成

### 評価ポイント

#### 2015年8月の結果

- 15年8月の機械受注額は、船舶・電力を除く民需が季調済前月比▲5.7%(前年同月比▲3.5%)と、3か月連続の減少となった。3か月連続の減少は09年5月以来。外需は同▲26.1%(同▲13.5%)と4か月ぶりの減少となった。
- 8月の機械受注額を業種別にみると、製造業は季調済前月比▲3.2%、非製造業(船舶・電力除く)は同▲6.1%といずれも減少している。
- 製造業は、6月以降受注額が減少している。一般機械は、季調済前月比▲6.8%(前月同+9.2%)と、2か月ぶりに受注額が減少した。電気機械は、同▲22.1%(前月同▲27.3%)と、6月の大型受注からの反動もあり減少を続けている。輸送用機械は同+5.0%(前月同+17.1%)と増加した。
- 非製造業も受注額は減少傾向にある。通信業が季調済前月比+61.8%(前月同▲29.6%)と大きく増加したが、金融保険業が同▲40.4%(前月同+16.1%)、運輸郵便業が同▲18.4%(前月同▲4.2%)など減少した業種が多かった。

#### 基調判断と今後の流れ

- 機械受注は、中国経済をはじめとする新興国経済減速などを背景に、6月以降弱い動きを続けている。
- 6月時点の7-9月期の機械受注の見通しは、船舶・電力を除く民需で季調済前期比+0.3%が予想されていたが、これを達成するには、9月が季調済前月比43.4%増加する必要があり、見通しから大幅に下振れる見込み。
- 9月の受注額が前月比横ばいとすると、7-9月期は季調済前期比▲12.2%の減少となり、8月の受注減の半分を9月に取り戻すとしても、7-9月期は同▲11.3%の減少となるなど、リーマンショック時(08年10-12月期、同▲14.2%)以来の大幅なマイナスは避けられないだろう。
- 日銀短観などによれば非製造業を中心に設備不足感が強く、機械受注の先行きは緩やかに持ち直していくと予想するが、海外経済の変調による外需の鈍化やそれに伴う企業マインドの悪化などで、設備投資計画の実行を遅らせている(あるいは見送っている)可能性もあり、その影響には注視が必要。